

## 第4回 高知県史編さん編集委員会議事概要

日時：令和4年10月8日（土）

10時00分～12時00分

場所：高知県庁 正庁ホール

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、井上委員、岩佐委員、大門委員、岡本委員、  
小幡委員、佐藤委員、鋤柄委員、常光委員、津野委員、原委員、三浦委員、  
三宅委員、邑田委員、渡部委員

事務局：中内課長、山崎企画監兼室長、窪内課長補佐、南チーフ、大城主事、小林主事、  
弘田主事、坂本専門員

### 1 開会

### 2 挨拶

藤井委員長より開会挨拶

### 3 協議・報告事項

#### (1) 前回の編集委員会の概要について

資料1について、事務局より説明。

#### 【各委員主な意見】

- 市町村との連携に加え、高知県文化財団や土佐山内記念財団など、県と直接関係をもつ組織についても、より積極的な施策が必要ではないか。

→ 県の外郭団体として、高知県文化財団や土佐山内記念財団がある。人的な交流、あるいは委員の協力体制として、例えば文化財団からは民俗部会委員として現職の職員が2名入っている。ただ、今後は人的な体制だけでなく、写真撮影等の調査の協力体制を進めていく。今後の資料調査を進めていくためには、両財団の協力は不可欠であり、積極的な施策について念頭において進めてまいりたい。

#### (2) 各専門部会の活動状況について

資料2について、設置済みである近世、近代、民俗部会より説明。

【各委員主な意見】

- 刊行の順番について、事務局はどうお考えか。
  - 編集委員会の要綱では編集に関することを協議するといった細かい規定はない。各専門部会で協議いただいた内容の内、必要なものを報告いただき、編集委員会で協議すべき内容であれば協議し検討する形をとりたい。
  - 刊行の順番については各部会で判断し、結果について編集委員会で報告し了承を得る形でよいか。

各委員意見なし

- 県庁のパソコンは外部から持ち込んだUSBを差し込むことでできず、調査データが現在委員の手元にない状態。クラウドの重要性について度々議題にあがっているため、事務局には形にしてもらいたい。

(3) 来年度以降に設置予定の専門部会について

資料3について、来年度設置予定である古代・中世、現代部会より説明。

参考資料1について、来年度以降設置予定である考古部会より説明。

【各委員主な意見】

- 絶滅危惧種の保全などの自然環境についてはどのような割り振りにすべきか。
  - 現代部会では高知県の現在の暮らしに関わるような自然環境を取り扱うことになる。絶滅危惧種全般に関することは自然部会で検討いただく方がいいのではないか。
  - 現代部会が先行して発足し、自然部会が後から動くことになる。現代部会の活動状況を踏まえ、進め方について検討していく。
- 考古部会における調査では特殊技能を伴った調査が必要になる。具体的な実戦経験が豊富な高知県立埋蔵文化財センターに業務委託あるいはそれに近い連携を図ることが適切。事務局には調整をお願いしたい。
  - そもそも県の組織である高知県立埋蔵文化財センターに業務委託することは可能か。
  - 高知県立埋蔵文化財センター自体は文化財団の組織として、県の業務委託を受けることは可能。ただ、高知県史に携わる業務について人員配置が可能であるかどうかは今後検討していく必要がある。

(4) 資料撮影の基準について

資料4について、事務局より説明。

9月に実施した近世・近代部会での撮影調査の結果に基づき、協議。

【各委員主な意見】

- 近世部会の撮影については、高知城歴史博物館の撮影部隊と事務局とで協議し、歴史博物館資料館や高知城歴史博物館のレベルで撮影することを決めた。取り扱う資料の量が多いため、速度を意識しつつも、後世で利活用できるよう撮影を進めていく。
    - 今後編さん室に撮影スペースが確保され、恒常的に撮影できるようになれば、スケールは統一した基準でも良いのではないかと。一方で現地での資料の状態によっては、統一した基準に沿えないこともあると思う。個々の部会の実情に合わせた臨機応変な対応が必要ではないか。
  - 本来であれば丁寧に撮影していくべきだが、どの程度資料が現存しているかわからず、目処がつかない。資料が厚く、背の部分が見づらい場合には手で押さえる等し、手間暇がかかる。部会委員に内容がわかる程度で撮影を進める必要があると現時点では判断した。
  - 再現性、復元性の観点から、やはりフルサイズのカメラを調達してほしい。また、チャートやホワイトバランスを入れた方がより再現性が担保されるのではないかと。
  - 撮影より、撮影後の共有・管理に課題がある。20年間にわたる長期事業であるため、撮影したデータの所在がわからなくならないよう、フォルダ管理の原則を決めることは重要。また、撮影と同時に利用条件を規定しておく必要がある。
  - 編さん室に各博物館や図書館との連絡ができる専門の人材がいなければ、サーバー、クラウドやリモート環境を用意したとしても、コントロールは難しいのではないかと。
  - 後世に残す、利用が最優先といったそれぞれ意見があるが、ひとまず各部会の利用を念頭に置いて進めてもらうのが現状ではないかと。
  - 県のセキュリティ面の問題もあるが、集めたデータの共有・集約のためにも外部のUSBが使えない今の状況解決に向けて、事務局には早急に取り組んでいただきたい。
    - 来年度導入に向け、クラウドの予算要求をしている。導入までの期間は、各委員とやりとりしながら方法を検討していきたい。
- (5) 令和5年度予算の要求方針について  
資料5について、事務局より説明。

各委員質疑なし

- (6) 高知県史の第1期計画について  
資料6について、事務局より説明。

【各委員主な意見】

- 第1期の成果報告のコンセプトと全体を通じた編集の基本的な考え方についての共有を検討いただきたい。
- 各専門部会の活動内容や資料調査を通じて県の歴史の魅力をアピールできればと思う一方で、県民世論を味方につけるという視点も必要であると思う。次回以降、第1期成果報告及び県民への公表について議論できるよう準備を進めてまいりたい。

- (7) その他  
報告事項等なし

4 閉会

(以上)